

日観連 2010年度冬季 旅館営業概況調査

単価、稼働率ともに低調

期間＝2010年12月～2011年2月 回答＝231軒

冬季(2010年12月～2011年2月) 地域・規模別営業概況

Table with columns for region (e.g., 北海道, 東北), scale (大規模, 中規模, 小規模), and metrics: 総消費単価(円・%), 宿泊単価(円・%), 定員稼働率(%). Includes a 'マイナス' (Minus) column for negative changes.

日観連は主要観光地にみる、前年同期を上回ったのは関東(0.4%)だけ。施設が0.4%減の1万5674円、3079室に営業概況を調査して、今期の回答数は231軒だった。定員稼働率は、冬季3カ月の全国平均が前年同期比3.6%減の30.8%。月別ではすべての月で前年同月を下回り、12月が2.8%減の32.9%、1月が3.5%減の29.4%、2月が3.1%減の30.1%だった。東北はほぼ前年並みだったが、他の地域は1〜4%減の35.2%だった。

宿泊単価は1.5%減の1万198円に

日本観光旅館連(近畿孝休会長)がまとめた会員旅館・ホテルの営業概況調査の結果、2010年度冬季(10年12月～11年2月)の総消費単価、宿泊単価、定員稼働率はいずれも前年同期の実績を下回った。景気の低迷で宿泊需要が縮小したほか、全国各地で価格競争が激化したためとみられている。地域別では、新燃岳噴火の影響を受けた九州の定員稼働率が低下した。NHK大河ドラマ「龍馬伝」の効果などで高知を中心に好調だった四国エリアも、総消費単価、宿泊単価、定員稼働率いずれも下がった。

景気低迷、価格競争も激化

施設規模: 大規模: 客室数80室以上, 中規模: 客室数30～79室, 小規模: 客室数29室以下

調査項目

総消費単価: 3カ月の宿泊料と館内販売などの総売上高を、宿泊人数で除した金額
宿泊単価: 3カ月の1泊2食宿泊料および室料を宿泊人員数で除した金額
定員稼働率: 3カ月の総収容定員に対する宿泊人員の割合

調査データ

冬季(2010年12月～2011年2月) 主要観光地別営業概況

Table with columns for region (e.g., 北海道, 東北), specific location (e.g., 阿寒・川湯, 旭川・滝川), and metrics: 総消費単価(円・%), 宿泊単価(円・%), 定員稼働率(%). Includes a 'マイナス' (Minus) column.

冬季(2010年12月～2011年2月) 月別営業概況

Table with columns for region (e.g., 北海道, 東北), month (12月, 1月, 2月), and metrics: 総消費単価(円), 宿泊単価(円), 定員稼働率(%). Includes a 'マイナス' (Minus) column.